

「アデノウイルス感染症」について

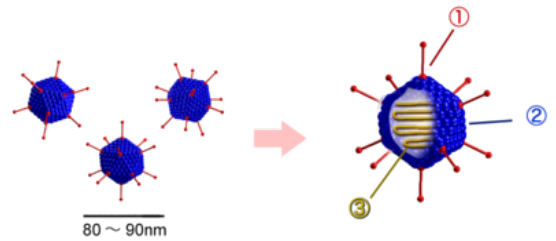
人に感染するアデノウイルスは51種類の血清型および52型以下の遺伝型があり、A～Gの7種に分類されます。

直鎖状二本鎖DNAウイルスで、カプシド（ウイルスゲノムを取り囲むタンパク質の殻）は直径約80nmの正20面体の球形粒子をしており、エンベロープ（ウイルスの外側にある膜）を持ちません。（図右）

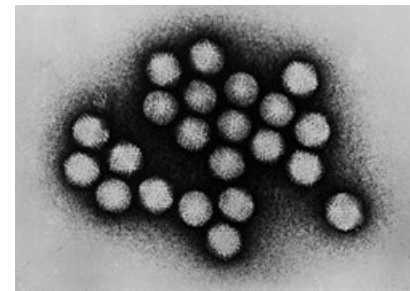
アデノウイルスは「かぜ症候群」を起こす主要病原ウイルスの一つと考えられていますが、独自の症状として、高熱が4～5日続き、目や胃腸にも症状が出る特別なウイルスです。

種類によって、どのような病気を起こすのか、ある程度判明しています。多くのアデノウイルスは、潜伏期は5～7日で、感染経路は便、飛沫、直接接触によります。感染した場合、アデノウイルスは扁桃腺やリンパ節の中で増殖します（「アデノ」とは扁桃腺やリンパ節を意味する言葉。）。

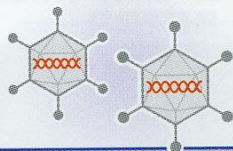
アデノウイルスは種類が多いため免疫がつきにくく、一つの型にかかってもまた別の型でかかってしまう可能性が高いのです。ウイルスの種類により異なる性質を持っているのでアデノウイルス感染症は、軽度な「風邪」程度から重症の扁桃腺炎、肺炎、結膜炎、嘔吐・下痢症など様々な病気が引き起こされるのです。特に、扁桃炎と結膜炎は症状がひどく、細菌感染との区別が付きにくいほどです。このうち、アデノウイルス感染症の代表的な疾患に「咽頭結膜熱（プール熱）」、「流行性角結膜炎（はやり目）」があります。



図（上）：アデノウイルスの構造
正20面体の頂点に位置する12個のペンタオンカプソマー（スパイク、①）と、各面に配置された総数240個のヘキサオンカプソマー②とで構成されたカプシド、およびそれに覆われたウイルス核酸（直鎖状二本鎖DNA、③）からなる



図（上）：アデノウイルスの透過型電子顕微鏡写真



病 型	主な血清型	好発年齢	主な症状
咽頭結膜熱（プール熱）	3, 7	児童	咽頭炎, 結膜炎, 発熱 
呼吸器感染症（上気道含む）	3, 4, 5, 7	乳幼児	咳, 発熱, 咽頭・扁桃痛 
流行性角結膜炎	8, 19, 37	全年齢	角結膜炎 
出血性膀胱炎	11, 21	幼児, 児童	血尿, 頻尿, 下腹部痛 
胃腸炎	31, 40, 41	乳幼児	小児の下痢, 腹痛 

咽頭結膜熱（プール熱）

主としてアデノウイルス3型による感染です。

1日の間に39～40度の高熱と、37～38度前後の微熱の間を、上がったたり下がったりが4～5日ほど続き、扁桃腺が腫れ、のどの痛みを伴う。その間、頭痛、腹痛や下痢を伴い、耳介前部および頸部のリンパ節が腫れることがあります。加えて、両目または片目が真っ赤に充血し、目やにが出るなどの結膜炎症状がみられる場合、「咽頭結膜熱」と診断されます。

飛沫感染や糞便を介して感染します。

かつて夏にプールを介して流行することがあったため、俗称として「プール熱」とも呼ばれていました。現在は塩素濃度管理の徹底等によりプール水での感染は稀と考えられます。

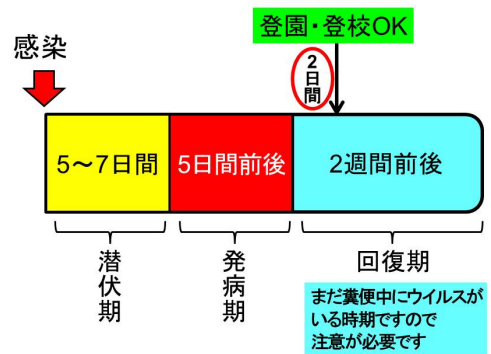
うがい、手洗い、プールの塩素消毒などで、ある程度予防できます。

「咽頭結膜熱」は学校保健安全法上の学校感染症の一つであり、主要症状がなくなった後、2日間登校禁止となります。なお、アデノウイルス感染症になると2週間～1カ月位の間、ウイルスは便の中に出続けます。但し、この場合の感染力はさほど強くなく、手洗いなどの一般的な予防方法の励行で登校は可能とされています。



咽頭結膜熱の症状：結膜炎（左）及び咽頭炎（右）（加藤小児科医院のHP転載）

アデノウイルス感染症の経過



流行性角結膜炎（はやり目）

8型、19型、37型および53型、54型、56型等の新型アデノウイルスが原因です。

別名「はやり目」とも言われ感染力が強い病気です。

アデノウイルスのついた指や手で目をこすることによっておこります。潜伏期間は一週間またはそれ以上で、眼科の病気としては発病まで長い時間がかかります。

白目（球結膜）が真っ赤になり目やに（眼脂）や涙がたくさんは出ます。またまぶたが腫れます。放置しておくと角膜にまで炎症が進行し、目の異物感や痛みが出てきます。角膜に混濁が起こると数年続くこともあります。まれに視力障害を残すこともあります。

流行性角結膜炎の場合は目の症状が軽くなってからも感染力の残る場合があります、医師が伝染の恐れが無いと判断するまで出席停止となります。

呼吸器感染症

主として3型および7型によります。

特に7型は重症の肺炎を起こします。乳幼児がかかることが多く、髄膜炎、脳炎、心筋炎などを併発することもあります。だらだらと長引く発熱、咳、呼吸障害など重症になることがあり、時に致命的なことがあります。

出血性膀胱炎

主として11型によります。

排尿時の痛みと肉眼的血尿が特徴で、これらの膀胱炎症状は2~3日で良くなり、尿検査での潜血も10日程度で改善します。

胃腸炎

主として31型、40型、41型によります。

乳幼児期に多く、腹痛、嘔吐、下痢を伴いますが、発熱の程度は軽い経過となります。

図は、「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」<MEDIC MEDIA>、<ウィキペディア フリー百科事典>、わしお耳鼻咽喉科、神奈川県衛生研究所 ホームページ から引用しました。

この「診療所だより」や診療についての御意見・御要望などをお気軽にお寄せ下さい。
これからの参考にさせていただきます。

編集・発行： 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4（御国通り2丁目）
電話：0745-65-2631